

# 京都府京都市方言の否定の表現

井上 博文

## I. はじめに

- (1) 調査対象地；京都の言葉は日本語の歴史の中で中央語の地位を担ってきた。現在、生活圏の広域化で京都と大阪（神戸や奈良も含め）とを通勤や通学、買物等々で行き来し、同時に放送媒体によっても言葉の交流が日常的になっている。特に若年層では「関西弁」と一まとまりに捉えられる程に地域共通語としての均一化が見られる。しかし、こまやかに観察すれば、種々の面で相違が存しているのも事実である。
- (2) 調査年月日；平成7年（1996）4月1日～15日。但し、平成4年4月以来の調査資料も加えている。
- (3) 話者；a山岡譲（m.S.11.東山区）会社員、b今井昌子（f.S.18.北区）大学講師、c桑原綾（f.S.49.東山区）短大生（大阪成蹊女子短期大学）。
- (4) 調査場所；①は話者宅、②③は大阪成蹊女子短期大学講師控室。
- (5) 調査方法；統一調査票による質問調査を主とし、補いに京都市内での自然傍受。
- (6) 事象のアクセントは、高音部に上線を付して示し、文アクセントの表記は、上昇を「 $\uparrow$ 」、下降を「 $\downarrow$ 」で示す。なお、事象のアクセントは話者の発話の文中に実現したものである。話者の間で相違する場合には、a b cの順で取り上げた。

## II. 調査結果

### (1) 動作・作用の否定表現

- 1 行かない イカヘン 「ヘン」は発話文の中で「ヘーン」と長呼されることも多い。  
(以下、「ヘン」のみ記す)  
○ア「メ」ガ フル「サ」カイ ドコ「ニ」モ イカ「ヘ」ン。(m.S.11) 雨が降るからどこにも行かない。
- 2 降らない フラヘン  
○キョー「ワ」 ア「メ」 フ「ラ」ヘ「ン」 「デー」。(f.S.49) 今日は降らないよ。
- 3 行きません ①イキマセン／②イキマヘン ①が丁寧、「標準語」、②は親しい者に用いる。若年層は使わない。
- 4 行きはしない ①イキマセン／②イカヘン 強調の場合には副詞を使う。  
○「ゼツタ」イ 「イカヘ」ン。(f.S.49) 絶対行かない。
- 5 いらっしゃらない（行かれない） ①イカレマセン／②イキハラヘン／③イカハリマセン／④イカハラシマセン  
○キョー「ワ」 「セ」ンセ ドコ「エ」モ イ「カ」ハラシマセ「ン」 「ロー」ン。(f.S.11)  
今日は先生どこもいらっしゃらないの？。
- 6 行かなかった ①イカヘンカッタ／②イカンカッタ／③イカナカッタ／④イカナンダ  
②は親しい者へ、③は丁寧、「標準語」、④は古い言い方で聴くが使わない。  
○キョー「ワ」 「ゼンゼン」 ドッ「コ」モ 「イカヘンカッタ」。(f.S.49) 今日はぜんどこにも行かなか

った。

○キョー<sup>一</sup>ワ ドコ<sup>一</sup>エ<sup>一</sup>モ イ<sup>一</sup>カ<sup>一</sup>ナンダ。(m. S. 11) 今日はどこへも行かなかった。

7 行きはしなかった ①イカチカッタ／②イカヘンカッタ

8 行くまい ①イカチイ／②イカントコー

9 出まい ①デン／②デーヘン③デナイ／

10 すまい ①モーヘン／②シーヘン／③シーイン／④シナイ

○<sup>一</sup>テ<sup>一</sup>ンキノ モ<sup>一</sup>ヨ<sup>一</sup>ーガ <sup>一</sup>ワ<sup>一</sup>ルイ<sup>一</sup>ノ<sup>一</sup>デ ナン<sup>一</sup>ニ<sup>一</sup>モ セー<sup>一</sup>ヘン。(m. S. 11)

天気もようが悪いのでなんにもしない。

○キョー<sup>一</sup>ワ テンキモ<sup>一</sup>ヨ<sup>一</sup>ーガ <sup>一</sup>ワ<sup>一</sup>ルイ<sup>一</sup>ノ<sup>一</sup>デ ナン<sup>一</sup>ニ<sup>一</sup>モ シー<sup>一</sup>ヘン。(m. S. 11)

今日は天気もようが悪いのでなんにもしない。

11 降らないだろう ①フラヘンヤロー／②フラヘンアンチャウカ／③フラヘンダロー

○キョー<sup>一</sup>ワ <sup>一</sup>タ<sup>一</sup>ブン <sup>一</sup>アメ<sup>一</sup> フ<sup>一</sup>ラヘン<sup>一</sup>ノ<sup>一</sup>ン <sup>一</sup>チャ<sup>一</sup>ウカ <sup>一</sup>ナー。(f. S. 49)

今日はたぶん雨降らないのと違うか。

12 降るにちがいない ①キツト〜ラルデショー／②ランノチヤウカ〜／③ランノチヤウカ〜／ゼッタイ〜フル デー

13 来ない ①キーヘン／②コーヘン ②は頗。「デーヘン」は大阪弁のように聞こえる。

○イツ<sup>一</sup>タママ<sup>一</sup> カ<sup>一</sup>エツ<sup>一</sup>テ <sup>一</sup>コー<sup>一</sup>ヘン。(m. S. 42) 行ったまま帰って来ない。

○イツ<sup>一</sup>タ<sup>一</sup>ナ<sup>一</sup>リ カ<sup>一</sup>エツ<sup>一</sup>テ <sup>一</sup>キー<sup>一</sup>ヘン。(f. S. 35) 行ったまま帰って来ない。

14 来はしない ①キヤヘン／②コーヘン／③キーヘン ①は強い言い方である。②と③では③の方が強い言い方。

○ミズ<sup>一</sup>ガ デー<sup>一</sup>ヘント ユー<sup>一</sup>タ<sup>一</sup>リ デ<sup>一</sup>ヤ<sup>一</sup>ー<sup>一</sup>ヘント ユー<sup>一</sup>タ<sup>一</sup>リ。コノ <sup>一</sup>ミ<sup>一</sup>ズ  
デ<sup>一</sup>ヤ<sup>一</sup>ー<sup>一</sup>ヘンヤ<sup>一</sup>ナイ<sup>一</sup> カ。(m. S. 11) 木が「デーヘン」と言ったり「デヤヘン」と言ったり。(暑って言う)この水でないじゃないか。

15 来なかった ①キ<sup>一</sup>(一)ヘンカッタ／②キ<sup>一</sup>(一)ヘンカッタ／③コーヘンカッタ  
／④キヤヘンカッタ ④は強い言い方。

○キョー <sup>一</sup>ハチ<sup>一</sup>ジカラノ <sup>一</sup>カ<sup>一</sup>イゴニ <sup>一</sup>ダ<sup>一</sup>レモ <sup>一</sup>キー<sup>一</sup>ヘンカッタ <sup>一</sup>ナ。

(m. S. 11) 今日八時からの会合に誰も来なかったなあ。

16 見ない(見かけない) ①ミ<sup>一</sup>ヘン／②ミテヘン

○キョー<sup>一</sup>ワ <sup>一</sup>ダ<sup>一</sup>レモ <sup>一</sup>ミ<sup>一</sup>テ<sup>一</sup>ヘン <sup>一</sup>ワ<sup>一</sup>ー。(f. S. 49) 今日は誰も見ていないよ。

17 居ない イーヘン

18 行かずに イカント

○キョー<sup>一</sup>ワ ドッ<sup>一</sup>コ<sup>一</sup>モ <sup>一</sup>イカ<sup>一</sup>ント <sup>一</sup>イ<sup>一</sup>エニ <sup>一</sup>イ<sup>一</sup>ル。(f. S. 49) 今日はどこにもいわずに家にいる。

19 行かなくても ①イカンデモ／②イカヘンカッテ

20 行かなければ ①イカンカッタラ／②イカナンダラ／③イカヘンカッタラ ②は古い言い方。

- ワ'ザ'ワザ 'イカナンダ'ラ ヨ'カッ'タ。(m. S. 11) わざわざ行かなかつたらよかつた。
- 21 行かねば イ万ナ (一)  
○ゼッ'ター'イ 'イカ'ナ 'アカン'シ。(f. S. 49) 絶対行かないといけないから、
- 22 行かねばならない ①イ万ナイカ<sup>ン</sup>／②イ万ナアカ<sup>ン</sup>／③イカ<sup>ン</sup>トアカ<sup>ン</sup>
- 23 ーズ 言わない ただし、井之口有一・堀井令以「京ことば辞典」(1992. 3 東京堂出版)に「イ万ズヤ」が見える。
- 24 行きもせず、来もしない ①イ万ヘンシ<sup>ニ</sup>～キヤヘン／②イ万ナイシ<sup>ニ</sup>～ゴナイ／③イ万ヘンシ<sup>ニ</sup>～キーヘンシ／④イ万ヘンシ<sup>ニ</sup>～コーヘンシ  
○コッチカ'ラ'モ イ'カヘン'シ' 'ム'ッカ'ラモ キ'ヤヘン。(m. S. 11)  
こっちからも行かないし向うからも来はしない。
- 25 行くか行かないかわからない イクカイツカヘンカワカラヘン

(2) 存在・状態・判断の否定表現

- 26 無い ①アラヘン／②ナイ(一)
- 27 無い ①ナイ／②アラヘン ②は稀、強い言い方。  
○コトシノ'ヨ'ーニ 'ア'ツイ 'ナ'ツワ ア'ラヘ'ン ナー。(m. S. 11)  
今年のように暑い年はないなあ。
- 28 ありはしない ①(メッタニ) ナイ／②アラヘン
- 29 無かった ナカッタ  
○コトシノ'ヨ'ーニ 'ア'ツイ 'ト'シワ イママデ'ニ'ワ ナ'カッ'タ 'ネー。  
(m. S. 11) 今年のように暑い年はいままではなかったねえ。
- 30 ありはしなかった ①アラヘンカ<sup>ッタ</sup>／②ナカ<sup>ッタ</sup>  
○コトシノ'ヨ'ーニ 'ア'ツイ 'ト'シワ ア'ラヘ'ンカ<sup>ッタ</sup>。(m. S. 11)  
今年のように暑い年はありはしなかった。
- 31 無いだろう ①ナイヤロ (一)／②アラヘンヤロ (一)／③ナインチャウカー  
○モー 'コン'ナ 'ア'ツイ 'ト'シワ ナ'イ'ンチャウ カー。(f. S. 49) もうこんな暑い年はないのと違うか。
- 32 無ければ ①ナカ<sup>ッタ</sup>ラ／②アラヘンカ<sup>ッタ</sup>ラ／③ナカ<sup>ッタ</sup>  
○'ナ'ツナンカ 'ナカッ'タ エーノ'ニ。(f. S. 49) 夏なんかなかったらいいのに。
- 33 暑くない アツ (一) ナイ
- 34 暑くはない ①アツーワナイ／②アツ (一) ナイ
- 35 暑くなかった アツ (一) ナカ<sup>ッタ</sup>
- 36 暑くはなかった ①アツーワナカ<sup>ツ</sup>ナカ<sup>ツ</sup>／②アツ (一) ナカ<sup>ツ</sup>
- 37 暑くないだろう ①アツ (一) ナイヤロ (一)／②アツ (一) ナイタロ (一)／③アツ  
ナインチャウカー

○アシタ 「モー アンマリ 「ア」ツナ「イ」ンチャウ カー。(f. S. 49) 明日はもうあんまり暑くないのと違うか。

38 涼しくない スズシナイ

39 にぎやかでない ①ニギ「ヤカデナイ／②ニギヤカチヤウ

40 にぎやかではない ①ニギ「ヤカデワチイ／②ニギヤカチヤウ／③サミシー下コヤ

41 にぎやかでなかった ①ニギ「ヤカデチカッタ／②ニギヤカチガッタ

42 にぎやかではなかった ①ニギ「ヤカヤチカッタ／②ニギヤカチガッタ

43 にぎやかではなからう ①ニギ「ヤカヤチカロー／②ニギ「ヤカヤチイダロー／③ニギヤカチヤウヤロ

○アノ「ヘン」ワ モー ニ「ギ」ヤカ「チャ」ウ「ヤ」ロ 「ナ」ー。(f. S. 49)

44 花ではない ①ハナヤチイ／②ハナチャウ

○アレワ 「ハ」ナ「チャ」ウ 「デー」。(f. S. 49) あれは花と違うよ。

(3) 特定の慣用句による否定(不可・禁止)表現

45 だめだ(不可) ①アカン／②ムダヤ

○ソソ「ナ」コ「ト」デワ イクラ ヤ「ッ」テ「モ」アカン。ヤ「メ」ロ。(m. S. 11)

そんなことではいくらやってもだめだ。やめろ。

○「ソ」ソナン ナンボ ヤ「ッ」テモ 「ムダ」ヤ 「デー」。(f. S. 49) そんなことではいくらやっても無駄だ。

46 だめな(不可) ①ツマラン／②アカン

○アイ「ツ」ワ 「アカン ヤ」ツジャ。(m. S. 11) あいつはだめな奴だ。

47 つまらない(不可) ①ロクデモチイ／②ユニタレヘン(言に足りない)／③ツマンチイ／④ツマラン／⑤ショーモチイ

○ユ「ニ」タレヘンコト 「ユ」ナ。(m. S. 11) 言に足りないことを言な。

○「ツマラン コ」ト ユ「ワ」ントキ「ー」。(f. S. 49) つまらないこと言わないで。

48 いけない(禁止) ①イカン／②アカン ②が強い言い方。

49 行カレン(禁止) 言わない

50 行くな(禁止) ①イクナ／②イタラアカン

51 するな(禁止) ①シナ／②スルナ／③アカン／④シン下キ「ー」 ①は身内の者へ、主に子どもに言う。③と④では③が強い言い方。

52 行くもんでない ①イカンホーガエー／②イクモンチャウ

○ソソナト「コ」イクモン「チャ」ウ 「デー」。(f. S. 49) そんなところ行くものと違うよ。

53 たまらない ①タマリマヘン／②タマラン／③タマラヘン／④カナン

○キョー「ワ」ア「ツ」クテ 「タマリマヘン」ナ「ー」。(m. S. 11) 今日は暑くてたまりませんねえ。

○ア「メ」ガ 「フ」ツ「テ」キテ 「イ」ヤ 「カ」ナン 「ワ」ー。ドーシ「ヨ」ー。(f. S. 18)

(傘を持って来ない時に) 雨が降ってきて、いや困ったなあ。どうしよう。

- 54 しかたがない ①シヨーチイ／②シャーチイ／③シカタナイ ①が頻。
- 55 楽ではない ①ラクヤチイ／②ラクジャチイ／③ラクチャウ  
○「トー」クマデ ア「ル」クノワ 「ラ」ク「チャ」ウ 「ナー」。(f. S. 49) 遠くまで歩くのは楽ではないなあ。
- 56 歩きたくない ①アルキ下ーチイ／②アルキタナイ  
○コンナ「ン」 ア「ツ」シ アルキ「タ」ナ「イ」 「ワー」。(f. S. 49) こんなに暑いから歩きたくないよ。
- 57 大丈夫だ ①ダイジョーブヤ／②ダイジョーブダ  
補 驚き・呆れの言い方 ヨー イワン ワ 中年層以上の女性の言い方  
○イヤー ソンナコト「ッ」テ 「ヨー」 イワン 「ワ」。(f. S. 18) あれまあ、そんなことってあきれわ。  
○アキレタ ヒ「ト」ヤ 「ナ」。「ヨー」 イワン 「ワ」。コンナコ「ト」 シ「ハ」ッ「テ」。  
(f. S. 18) 呆れたんだ、あきれわ、こんなことをして。

#### (4) 否定の応答表現

- 58 いや イヤ
- 59 いや (強い否定) ①イヤ／②イエエ／③イーエ  
○イ「イ」エ スコ「シ」モ 「ア」メワ フ「リ」マヘ「ン」。(m. S. 11) いいえ、すこしも雨は降りません。
- 60 いいえ ①イーエ／②イエエ
- 61 いや (否定問いかけに対する応答) (1)イヤ (2)イーヤ  
○イ「ヤ」ー フリマセン「デ」シター。(f. S. 49) いや、降りませんでした。
- 62 どういたしまして ①イーエ 下ーイタシマシタ／②ドーイタシマシター  
話者 a の調査が終わって礼を述べて辞す時に、「タ」ヨリナイ コ「ト」デ。アー 「エラ」イ ナ「カ」ナカ 「ム」ツカシ」。さらに礼を述べると、「イ「ヤ」イヤイヤイヤ」ー。タ「イ」ヘン「デ」ス 「ネ」ー。ホン「ト」ニ。モ 「ア」ノ オ「ヤ」クニ 「タ」ッ「タ」カ「ド」ー「カ」 「ワ」カリマセ「ン」ガ。」と応答があった。具体の例である。

#### (5) 不可能の表現

- 63 できない ①デケヘン／②デキヒン／③デキマセン 可能は「デキル・デキン」。  
○「ソンナ」ー「ン」 アタシ 「デ」キヒ「ン」 ワ「ー」。(f. S. 49) そんなのわたしできないよ。
- 64 読むことができない (状況) ①ヨヌーヘン／②ヨマレヘン ②は大阪弁のように聞こえる。  
○「ク」ライ「カ」ラ 「ジ」ワ 「ヨマレ」ヘン。(m. S. 11) 暗いから字は読めない。
- 65 読むことができない (能力) ①ヨー ヨマン／②ヨヌーヘン 可能は「ヨヌル・ヨヌン」。  
○ワタシワ 「ジ」オ 「シランカ」ラ 「コ」ノ シンブン 「ヨ」ー 「ヨマン」。  
(m. S. 11) 私は字を知らないから、このシンブンを読むことができない。

○'ショーガ'クセー'ヤ'ケド シンブン ヨ'メ'ン'デー。(f. S. 49) 小学生だけど新聞読めるよ。

66 出られない(心理的状況) ①デラレヘン/②イケヘン

○コンナー 'ハ'デナ 'フ'クオ 'キ'テワ 'ハズカシ'ーテ 'マチ'モ デ'ラレヘ'ン'ヤ'ン。(m. S. 11) こんな着手な服を着ては恥ずかしくて街も出られないよ。

67 食べられない タベラレヘン

○コノ' 'キ'ノコワ タベ'ラ'レヘ'ン' デー。(f. S. 49) この葎は食べられないよ。

68 食べることができない ①タベラレヘン/②タベレヘン

○アー イ'ソガシ'ーテ モ イ'ソガシ'テ 'ヒルメシ'モ ユツ'ク'リ 'タベラレヘ'ン。(m. S. 11) ああ忙しくて、もう忙しくて昼飯もゆっくり食べられない。

### (7) 反語・反発の強調表現

69 知るものか ①シルカイ(ナ) / ②シツタコツチャチイ / ③シラン ②は強い拒否を表す。

70 誰が行くものか ①ダレガイツガ(-)イ / ②ダレガイツガ- / ③ダレモイカヘン

②は腹が立ったような感じがする。

71 なんて行くか(行くものか) ①ナンタメ イクンヤ / ②~ナンカ イカヘン

○ソナ'ト'コ ナンカ 'イ'カヘ'ン。(f. S. 49) そんなとこなんか行かない。

72 なんて恥ずかしいものか(なんて恥ずかしからうか) ①チニモ ハズカシチイヤチイカ / ②チニモ ハズカシコト チイヤンカ / ③ナンデ ハズカシー

73 行かないでおるものか(行くとも!) ①チニガチンデモ イク ヽヨ / ②ゼツタイ イクヨ / ③ゼツタイ イクモーン

74 やれるか ①ヨー スルンカ / ②ゼツタイ デキヒ

75 シテイラン 言わない

○ソナ'ナ'ニ 'イ'ヤナ'ラ 'セ'ンデモ 'エー。(m. S. 11) そんなに嫌ならしくてもいい。

○'ソナ'ー'ン モ 'シン'デ 'エー'ワー。(f. S. 49) そんならもうしなくていいよ。

76 少しもはかどらない(少しも~ない) ①チョツトモ ハカドラン / ②チョツトモ ハカドリマヘン / ③ゼンゼン~ハカドラヘン

○'アツ'ー'テ シ'コ'トガ チョ'ト'モ 'ハカドラン。(m. S. 11) 暑くて仕事が少しもはかどらない。

77 ぜんぜんできていない(ぜんぜん~ない) ゼンゼン デキテヘン

78 いっこうに降らない(いっこうに~ない) ①イッコーニ(orイッコモorゼンゼン) フラヘン / ②イッコーニ フラチイ

○アメ イツ'コ'モ フ'ラヘ'ン ナー。(f. S. 49) 雨は少しも降らないなあ。

79 あまり降らない(あまり~ない) ①アマリ フラヘン / ②アンマリ フラヘン

80 (予想外に) たくさん ①キヨーサン / ②オモイフホカ ヨーケ / ③イッパイ ①は古い感じ。

(8) その他否定形式の関わる諸表現

- 81 いいではないか ①エーヤ チイカ／②イーン (or エーン) チャウ／③イーン (or エーン) ヤー  
○「イカンデ」モ エ「ヤー」ン「カ。(f. S. 49) 行かなくてもいいではないか。
- 82 いいのではないか ①エーノ (ト) チャウンカ／②エーンチャウカ  
○ワ「ザ」ワザ イカン「デ」モ 「エー」ノ「チャウ」ン「カ。(m. S. 11) わざわざ行かなくてもいいのではないか。
- 83 いいかもしれない エーカモ シレン
- 84 行かないか イカヘン (カ)
- 85 くれぬか ①クレヘン (カ)
- 86 くれませんか ①クレマセンカ／②クレヘンカ／③～下オクレヤス／④～下クレヤス  
／③モラエマセンカ ③④は主に老年層女性の言い方。
- 87 下さいませんか ①～クレマセンカ／②～クレヤスカ／③～グリヤスカ／④～クダ  
ザイ／⑤クダザイマセンカ／⑥クレハラヘンカ ②③は親しい者への女性のもの言い、  
⑥はくだけた言い方。
- 88 行かないと (行けば) ①イカントー／②イッタラ 後続する述部は、例えば、①は  
「ノリオケレル」に、②は「デンシャニ ノレル」にといったように述部の意味に違い  
がある。／③イデバー

III. 総括 (まとめ)

(1) 「ヘン」と「ン」

「ヘン」は話し相手 (対者) に向かう言表に関わる場合 (伝達のカリテイ) に、「ン」は自らのことを述べる場合に用いられる傾向が存するようである。関連して待遇表現上、「ヘン」は「ン」に比べてやわらかい語感がある。

文例01～04は「ン」の例である。

01. キョー ア「メ」ー「フリ」ソ「ヤ」シ ドコ「エ」モ「デン。(f. M. 41) 今日雨が降りそうだからどこへも出ない。
02. キョーワ ア「メ」ガ フリソ「ヤ」シ「ド」ッ「コ」モ「イカ」ン「ト」コ。(f. S. 18)  
今日は雨が降りそうだから、どこへも行かないでこよう。
03. ゼ「ン」ゼン「ケー」ゴ ツ「カ」ワンデ「モ」イー「ア」イテヤノ「ニ」ー「イハ」ル「ト」カ  
。「ネ」コガ「ネ」タハル「ワ」ー。(f. S. 49) ぜんぜん敬語使わなくてもいい相手のに「いはる」とか(言う)、猫が寝て「いはる」よ(とか言う)。
04. ミラレ「テ」ンノモ シ「ラン」ト「ネ」テル「デー。(m. S. 42) 見られているの知らないで、寝てるよ。  
また、「ン」は文例03・04のように、文構造上では述部に位置するよりも、従属する句のうちに位置することが多い。丁寧の助動詞「マス」に下接する場合には「～マセン・マ

ヘン」と「ン」である。「ヘン」の成立の事情と関わると思われる。アスペクト形式の「テル」に下接するときには、「ヨンデヘン(読んでない)」のように「ヘン」となる。同じアスペクト形式の「トル」は、「シトラン(してない)」と「ン」も下接する。

05. ア<sup>1</sup>ー オ<sup>1</sup>タ<sup>1</sup>エサン<sup>1</sup> ナ<sup>1</sup>ー。スンマ<sup>1</sup>ヘン<sup>1</sup>ケ<sup>1</sup>ド<sup>1</sup> ナ<sup>1</sup>ー。(m. S. 11) ああ、読んでないよ、  
すみません。

「ヘン」は前接する動詞の最終音節の母音の違いによって、/a//e//o/母音であれば「ヘン」、/i/母音であれば「ヒン」、さらに「イン」ともなる。「イン」は稀である。力変動詞「クル(来る)」に「ヘン」が接続する場合に「ケーヘン」「キヘン」「キーヒン」「キーイン」「コーヘン」を、サ変動詞「スル」の場合には「セーヘン」「シーヒン」「シーイン」を得ている。「キヤヘン」「シヤヘン」「デヤヘン」は表現主体の感情の表出を作った強い言い方である。「ン」は力変動詞「クル(来る)」で「コン」、サ変動詞「スル」で「セン」「シン」を得た。

## (2) 「アラヘン」と「ナイ」

文例06・07は、「標準語」であれば、形容詞の「ナイ(無い)」を使うところに、存在詞「アル」を用いたものである。

06. 'イヤ<sup>1</sup>ー ジューエン ア<sup>1</sup>ラヘ<sup>1</sup>ン。(中女) ああ、十円が無い、(電車の切符を買おうとしてあと十円が足りずに)

07. ツ<sup>1</sup>クエ<sup>1</sup>ン 'メ<sup>1</sup>ガネ ア<sup>1</sup>ラヘン ナ。'ド<sup>1</sup>コ イッ<sup>1</sup>タンヤ<sup>1</sup>ロー。ホント<sup>1</sup>ニ。

(m. S. 11) 机(の上)の眼鏡がないなあ、どこにいったんだろう、本当に。

文例08・09は、「ナイ(無い)」の例である。

08. ハ<sup>1</sup>ナガ<sup>1</sup> 'チッ<sup>1</sup>テシ<sup>1</sup>モー<sup>1</sup>テ ナン<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>モ ナ<sup>1</sup>イ<sup>1</sup> ワー。(m. S. 23) (桜の)花が散ってしまっ  
て、なんにもないよ。

09. コ<sup>1</sup>コニ<sup>1</sup> 'オ<sup>1</sup>イタ<sup>1</sup> 'メ<sup>1</sup>ガネガ<sup>1</sup> 'ナ<sup>1</sup>イ<sup>1</sup> 'ナ<sup>1</sup>ー。(m. S. 11) ここに置いた眼鏡がないなあ。

両者はどう違うのだろうか。単に、方言と「標準語」という文体的な差異ばかりではなさそうである。「ナイ」は状態の客観的な叙述を主とするのに対して、「アラヘン」は「アル」(存在すること)を一旦想定して、それが存しないと否定する分、主情的な把握の仕方になっているのか。使用頻度では「ナイ」が普通になっている。

## (3) 不可能表現

状況の不可による不可能は、「可能動詞未然形+否定辞」の形式で表現する。

10. コンナ 'キ<sup>1</sup>タナイ 'カ<sup>1</sup>ワデ 'オヨゲヘ<sup>1</sup>ン ガ<sup>1</sup>ナ。(m. S. 11) こんな汚い川で泳げないよ。

11. イソガシク<sup>1</sup>テ ヒル<sup>1</sup>ゴ<sup>1</sup>ハン<sup>1</sup>モ タベ<sup>1</sup>レヘ<sup>1</sup>ン。(f. S. 49) 忙しくて昼ご飯も食べられない。

能力による不可能は「ヨー 動詞未然形+否定辞」の形式で表現する。

12. 'オナカ<sup>1</sup> 'イ<sup>1</sup>タイ<sup>1</sup>シ コンナン 'ヨー タベ<sup>1</sup>ン<sup>1</sup> ワ。(f. S. 18) お腹が痛いからこんなものは  
食べられないよ。

いま、能力による不可能を表す、「ヨー 動詞未然形+否定辞」と「可能動詞未然形+否定辞」の二つの形式が混淆して、文例12のように「ヨー 可能動詞未然形+否定辞」となる事象もある。



13. 'ヨ'ー 'オヨゲヘ'ン。(m. S. 11) (泳ができないので) 泳がない

また、例えば「タペラレヘン」のような「動詞未然形+助動詞(レル・ラレル)未然形+否定辞」も不可能を表す。この形式は大阪弁の語感がするとの内省を得ている。大阪弁のしだいに浸透しつつある現象の一つか。

一方、表現主体の意志であれば、「動詞未然形+否定辞」で表して区別する。

14. モー 'ズツ'ト ヨ'マヘ'ーン。(f. S. 49) もう(これから)ずっと(本)読まない、

(4) 否定にはたらく婉曲表現

文例15は、打ち消しの応答の「イヤ」にはじまる文である。否定辞を含んだ述部は「省略」されているが、連文の上で、前の発話に提示された内容を否定している。文例15は、相手の依頼を断っているものである。

15. イ'ヤ 'ソンナ'ー 'フーニ'ワ。(f. S. 49) いや、そんなふうには、【ある言い方を例示して使用の有無を尋ねた時に】

16. 'イヤ'ヤ 'ワ'。(f. S. 18) 【嫌だよ、【悪い者から気のすまない仕事を頼まれたとき】

否定という言語現象を考えると、文のレベルで一文の中で統語論的に機能する形式と、発話のレベルの具体的な言語行為の場に於いてのはたらきとがある。後者は言語の運用の問題として捉えることができる。否定辞を含んでいなくとも場面性や言説の文脈(脈絡)とによって、表現主体の否定的な態度を表出することができる。

例えば、はっきりと断らずに婉曲的にものを言うことで、拒否の意志や気持ちを表現することも多い。やんわりとした拒否である。聞き手は相手の意を察しなければならぬ。

17. 'キョー'トワ ナンカ 'コー ハツ'キ'リ イ'ワヘン'ネン 'ネー。(f. S. 11)

京都はなんかこう(ものを)はっきり言わないだよねえ、(なにかを頼まれた時の断り方を尋ねた時に)

辞去しようとする来客を「お茶漬けでも」と引き止めようとすることについて、「京都のお茶漬け(ブブズケ)」といったやや揶揄的な言い方がある。これも婉曲的であるが特定の場面に於いては客への帰ることの促しである。その慣習を知らなければ言葉どおりに受け取って恥をかく。

単位を大きくすると、ある談話の主題がなんらかの対象についての否定である場合もある。

(5) 単語の中の否定辞

例えば、生活の苦勞を知らない者を言う「クローシラズ」や意地悪を表す「イテズ」のように、文形式であったものが固定化することで単語の形態の裡に否定辞「ズ」を含んだものが存する。

(いのうえひろふみ 大阪教育大学)